ハート・オブ・ゴールド 通信

vol.15

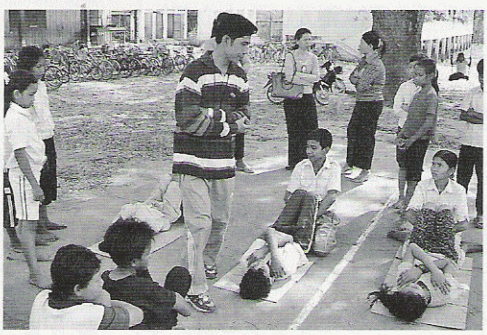
2006年7月1日 発行

発行/編集　ハート・オブ・ゴールド事務局
本部　〒701-1213 岡山市西辛川872-2
T&F 086-284-9700
メール:hearts05@hofg.org

URL : http://www.hofg.org/

①調印式

②ワークショップの様子



③体力測定の様子

④アジア地域事務所（新オフィス）

アンコールワット国際ハーフマラソン 2006

2006年12月17日（日）

12月15日　地雷撤去作業見学（予定）
12月16日　ウォーキング大会、前夜祭
特別協賛　第一三共株式会社
協賛　株式会社アス・ワン

スタッフ紹介

アジア地域事務所所長補佐　高道　陽子

今年2月からハート・オブ・ゴールドのアジア事務所で働いています。カンボジアはとても暑い季節ですが、現地スタッフとともに頑張っています！

当地ではカンボジアの小学校体育の指導書作成支援の業務を主に行っています。このプロジェクトではカンボジアでの体力測定結果や環境調査の結果に基づき、カンボジアにふさわしい指導要領、指導書を作成し、カンボジアの教科書認定局に提言することになっています。

体育科というと食糧問題や医療と比べ後回しにされがちですが、子どもたちの健全な心身の発育・発達に欠かせない運動と、けがや病気予防の知識に関する保健の教育など、より安全で健康な生活を送るためには不可欠です。この事業の成功によって、子どもたちが、より充実した安全な暮らしを手に入れることができると信じています。

このような有益なプロジェクトに携わることができ、心から嬉しく思います。ハート・オブ・ゴールドの活動をご支援くださるみなさまに心より感謝いたします。

■JICA草の根技術協力事業／草の根パートナー型

カンボジア王国 小学校体育科 指導書作成支援事業 活動レポート

ハート・オブ・ゴールド　アジア地域事務所長　山口　拓

ハート・オブ・ゴールドでは、2005年12月までの5年間、体育指導者と小・中学生の体育授業を向上させる目的で、当該国教育省担当局と共に巡回形式の指導会を設け、継続支援を展開していた。

それらの活動を継続する中で、2005年1月、教育省側から、「授業が定着しない根源的な原因を改善する必要がある。その原因を改善しうる指導書の作成に、是非、手を貸して欲しい」との要請を受けることとなった。

教育省との念密な調整を重ねた後、JICAカンボジア事務所のNGOデスク、JICA中国センターとの検討および調整に入ったが、多くの事業を抱えるJICAでは、知識と情報が溢れており、申請前の相談で多くを学ぶことができ、とても感謝している。

さて、JICAカンボジアおよび中国センターの指導を受けた後、団体で作成された申請書は、念願かなって2006年2月、教育省学校体育スポーツ局を支援するJICA草の根パートナー型支援事業として認められ、開始された。（写真①）

ただ、「カンボジア王国 小学校体育科指導書作成 支援事業」にあたっては、指導書作成の前段階として統計資料がなく、統計資料や資料分析などから開始する必要があった。

そのためHGは、2月13日に「統計資料作成および体力測定実施に関する指導」を目的に体力測定の専門家2名を派遣し、行政官10名と小学校教師26名の育成を図るべくワークショップを開催した。ワークショップの終了後には、参加者の配属校に調査団を派遣し、直接的な調査を行った。それぞれの調査校では、ワークショップ（写真②）で学んだ知識をそれぞれの状況に応じて創意工夫するなど、積極的な姿勢で体力測定（写真③）に取り組んでいた事などが確認されている。また、3月19日には、統計資料も然ることながら、指導書を作成する教育省担当行政官の知識と意識の向上が不可欠であることなどから、体育教育の専門家を派遣し、3日間の専門技術ワークショップを実施した。過密なスケジュールであったにもかかわらず、各授業項目後の執拗なほどの質疑、そして、授業休憩時間の専門家に対する質問など、熱心な姿勢が見られ、最終質疑時間には、時間を大きく上回る質問が寄せられるなど、行政官の真剣な思いを感じ取ることができた。

現在は、「体力測定と学校体育・スポーツ環境調査結果の分析」と「日本の体育科指導要領の翻訳」を行いつつ、体育教育専門用語の統一化を図るなど、数年先を見越した土台作りを進め、第一草案の作成に取り掛かっている。

※JICA草の根技術協力事業／草の根パートナー型とは、開発途上国への支援について、一定の実績を有しているNGO等の団体が、これまでの活動を通じて蓄積した経験や技術に基づいて提案する開発途上国への国際協力活動をJICAが支援する事業です。

カンボジアより二人のマラソンランナーを迎えて

今田　修

今回、初めてカンボジアからヘム・プンティーンさん（21歳）とハン・スリィさん（22歳）の二人のランナーが来日されました。二人は昨年のアンコールワット国際ハーフマラソンの優勝者でＨＧが大会10回記念として日本のかすみがうらマラソンに参加する為、招待したものです。私はボランティアとして高橋さんと一緒に一日目の成田到着から次の日の朝までを担当しました。入国手続きに手間取り、最初に到着ゲートから出てきた彼らはさすがに緊張していてあまり笑顔がみられませんでした。つたないクメール語と英語でなんとか話をしつつ移動しました。そして東京に行き昼食（焼き鳥丼）を食べ、JAXAi（宇宙航空研究開発機構）のPRルームの見学をした後、浜松町に移動、はとバスで皇居、浅草寺、そして隅田川クルーズ等を楽しみました。彼らは、東京は広くて、大きい高い建物があってすごい！と驚いた様子でした。浅草寺ではお賽銭を投げて何か祈っていたのが印象的でした。その間でも、すこしずつ慣れてきたとはいえ口数はまだまだ少なかったです。それでさすがに疲れてきたのか代々木のユースホステルへ行く途中のバスでは寝ているようでした。次の日の朝、クメール語の通訳のポンナレットさんが来てくれてやっと安心したようです。16日にかすみがうらで再び会った時はもうかなりリラックスしていました。そして無事にマラソンを二人共完走しました。

クメール語が少しできるということで引き受けましたがもっともっと勉強しなくてはダメだと思いましたが、自分にとっては、この案内役をしたことは大変貴重な経験となりました。今回の来日に際しては多くの人々の協力があってこそ無事に帰国までの全行程を終えることが出来たのだと思います。これからはこうしてカンボジアの人々を日本に迎えることも多くなると思われますので私たちもこの経験を生かして次につなげていかねばなりません。（分担してお世話いただいた方々ご苦労様でした。）

最後に若い二人が国に帰ってこの経験をいろいろな所で生かしてくれることを望みます。そして今回のこ

とが日本とカンボ
理解を促進させる
ば良いと思ってい

るしな・チャイルド・ケアセンター・プロジェクトを

担当者：アリー、サレッ、サモン、

＜全体的に　管理面では＞

・子どもたちの受入れ場所が、バッタンバンセンター・シェムリアップセンター・お寺（バッタンバン＆タケオ）・バッタンバンオフィスと分散する中で、マネジメントに不便はあったが、全般として大過なく子どもたちを養育することができた。

・予算をかなりオーバーしての支出となっており、下半期において子どもた ちの生活支出の切り詰めは行ったが、スタッフの人件費を含む管理費 比率が高く、この点の問題は残っている。

・職業訓練の取り組み等、地道な取り組みが行われた。

＜子どもたちの姿勢＞

・全体的に良好。

・僧侶の一人は、問題があり、本人と再度話合いを持ち、バッタンバンから戒律の厳しいタケオの寺に移した。タケオにおいて、現在彼の姿勢・日常は落ち着いている。

・具体的には、挨拶、目上の人と友人への態度の区別などのエチケットや

基本的生活習慣な
いる
・子どもたちはみ
分で考えることが
てきた。　将来に
になってきた。言
っている。
・センターに来る
どかった児童は、

200

桜組：20名。5年
中学生・高校生。将
っており、夢の実
の学習に意欲的に
ふじ組：23名。2年
詞のて形」を勉強
のて形は日本語の
も難しい分野にな
何かをお願いした
い時に、この文型
が適切に使えるよ
うに、教室にある
実物等を使って定
着も図っています。
ひまわり組：29名。
昨年の10月2日か
ら日本語を始めた
「ひまわり組」の子
ながやっと全部書
うになりました。
配るとすぐ自分で
が多くなりました

日本の学校との交

桜組の子ども達
日本の友達との手
ても楽しみにして

日本の学校の児
は、日本語教室の

日々挑戦

特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド代表　有森　裕子

2、3日前の暖かかった日が嘘のようで、寒い朝を迎えた4月16日の早朝、雨が心配でカーテンをあけた。路上はぬれていたが昨夜からの雨は止んでいた。

その日は霞ヶ浦マラソンの日だった。いろいろなレースに参加しているが、この大会は盲人の伴走として毎年参加している大会であった。今年の方は、目が見えないだけでなく、他にも障害を持っていらして、本当に10マイル走れるのだろうかと心配であった。にもかかわらず、時間はかかったが、最後まで完走されて「本当にありがとうございます」のお礼の言葉を頂き「こちらこそ、本当にありがとうございました。」とお返事した。彼女の笑顔は、走りきったという充実感があふれていて、みんなの心配を吹き飛ばした。

アンコールワット国際ハーフマラソンも昨年多くの人々の理解と支援を受け、記念すべき第10回大会を無事終えることが出来た。このマラソン大会は、カンボディアで唯一の国際大会であり、障害者が参加できる大会であるため多くの障害者の方が参加している。彼らは義手・義足をつけて、また車椅子で20キロ、10キロを走る。同じコースを、海外のランナーや健常者といわれる人と共に走るのである。毎年、必ず参加される方々とは、顔なじみになり、お互い笑顔をかわすだけで、「またやってきました。お元気でしたか？今年もいっしょに走り、そして1年、またがんばりましょう。」心が通じたような気持ちになる。

千里マラソンで参加者と一緒に走る（フォトする会撮影）

日本では、障害者という名称がつけられているが、英語では、時にChallenged（チャレンジド）と呼ぶ事がある。彼らは、様々なハンディーを乗り越えて挑戦する人であり、健常者といわれているわれわれが彼らに接することで、いかに多くのものを教えられるか。私自身も彼らから、力をもらって励まされて、日々挑戦してきたといっても過言ではない。

そして今、ランナーとして最後の挑戦を目指してベルリンと東京マラソンを計画している。皆様もぜひ、何か挑戦してみてください。

ジアの人々の相互
小さな一歩になれ
ます。

振り返って

中島、松本

どが成長してきて

な大きくなり、自
できるようになっ
ついても話すよう
葉遣いも丁寧にな

前の養育環境がひ
後遺症として問題

行動が見られていたが、徐々に落ち着いてきている。

・センター出身者の中から、るしなの活動を継いでいける人材育成を考えたい。そのために、できれば日本の高等学校への留学を希望している。

＜学校での学習＞

・全体に問題なし。

・数名に関しては、クメール語の読み書きができないなど、学習能力に問題があるため、今後の進路を考えたい。カンボディアでは学習が出来ないと落第となるため、退学させて、自立の道を探りたい。他人に任すと、ひどい扱いを受ける恐れがあるため、センターでの就労を考えたい。

＜職業訓練として＞

・養豚/野菜の栽培/シェムリアップでのカフェでのアルバイト（女子）/グッズの製作販売（胡椒・コーヒー・その他の販売）　などの活動を進めている。

・シェムリアップでは、漆原日本語教室の協力のもと、日本語の勉強を始めている。（3月から）

5年度 日本語教育報告

HG派遣日本語教師　檜尾　睦

目を迎えて、全員
来の夢もほぼ決ま
現に向かって毎日
取り組んでいます。
目を迎えた今「動
しています。動詞
文法の中でもとて
りますが、相手に

ども達は、ひらが
けたり、読めるよ
新しいテキストを
声を出して読む子
。

流

は、交流している
紙のやり取りをと
います。
童・生徒の皆さん
ニーズを聞いた上

で、今年も手作り日本語教材や日本の手作り遊びや手作りカレンダー、せっけんやタオル等の支援をありがとうございました。

一人一人に、きれいな「新年おめでとう」の立体的なカードを送ってくれた小学校6年生全員には子ども達はとても感動しました。また、ベルマークを集めてボールを送ってくれたクラス、ウオーキング大会やマラソン大会に出場する子ども達にがんばって!!と応援グッズのミサンガや横断幕を送ってくれたり、ウオーキングの時に日本のお客様と一緒に歌ってくださいと歌のプレゼントをしてくれた皆さんにも心から感謝しています。

これらの交流が、日本の子ども達にとっても、カンボディアの子ども達にとっても強い絆となって、お互いの心に響いていってすばらしい異文化理解と国際理解・交流になっていっています。お互いを思いやりながら、心の交流が出来ていることにとても喜びを感じております。

◆西日本支部活動

3月5日（日）**ABC篠山マラソン**会場、絶好のマラソン日和のなかカンボジア支援グッズ販売いってきました、多くのランナー、応援の方、他販売ブースの方、役員スタッフの方々に支援グッズを購入して頂きました、又来年も逢いましょうと暖かい言葉と心遣い頂き本当に有難う御座いました。

3月19日（日曜日）**2006千里国際チャリティーラン**「ハートオブゴールドカップ」HG会員の活動の場となっている大会です。写真班、スタート誘導、走路警備員、給水、チップ回収、支援グッズ販売、最後は会場の清掃と心地よい汗をかきました。

※追伸　9月24日（日）HG共催

吹田中の島“耐久”5時間走大会、運営ボランティア募集

・HG会員皆さん協力お願いたします。問い合わせ、申込み等は黄色いパンフレット（関西エリアおよび近県に配布）に記載

◆東日本支部活動

以下の活動に会員の方々の多大な御協力を頂きありがとうございました。

・2月6日～17日：研修生のスルン・レアン氏の筑波大学研修
（宿泊：永倉裕司　　通訳：今田修、飛澤新治）

・4月13日～17日：アンコールワット国際ハーフマラソン優勝者2名、霞ヶ浦マラソン招待（通訳：今田修、付添い：高橋眞理子、赤坂浩）

・4月16日：霞ヶ浦マラソングッズ販売

◆飯田クラブ活動

・AIHM2005カンボジア人入賞者のかすみがうらマラソン大会への招聘支援

・カンボジア障害者陸上連盟（CDAF)半期運営資金支援

・第2回飯伊市町村駅伝競走大会、第2回小学生かわらんべマラソン大会準備

2005年度岡山県海外技術移転プログラム研修生
スルン・レアン

各学校での研修を通じて、体育指導方法、教師の姿勢、体育教科書、スポーツゲーム(種類と内容、実践)、スポーツマネジメントなど、多くの事を学びました。私の研修の目的は、簡単で低価でかつカンボジアの学校事情でも計画できる指導内容を自国で発展させることです。日本とカンボジアの教育制度の違いも知りました。帰国後、この経験を私は同僚と共有し、カンボジア人を育てていきたいと思っています。また、今回の研修では日本語を学ばせて頂き、日々の生活のなかで、日本の文化や生活様式も体験しました。日本の文化や生活様式なども伝えていきたいと思います。

青年海外協力隊員
小元　加奈

（HG会員　元HGJYAリーダー）

いつか青年海外協力隊に参加したいという思いがあり、学生時代にHGJYAやインターンとしてHGの活動に参加しました。その経験を生かし、現在私はカンボジアのクラチェ県（プノンペンから341km）にあるクラチェ教員養成校に青年海外協力隊員（体育）として派遣されています。この学校では現在90人（1年生60人・2年生30人）の学生が勉強しています。彼らは2年間この学校で勉強した後、クラチェ県の小学校で先生になります。

私の2年間の主な活動内容は体育に関するカリキュラムや指導内容の改善を図り、授業を充実させることです。教員養成校のみでなく、隣り合う小学校（教員養成校の付属小学校）においても教員養成校と同様に活動する予定です。

HGCYAの仲間とは月に1回程会っています

着任して1ヶ月半が過ぎ、学校の生活にも漸く慣れました。先生も生徒も私を覚えてくれ、会う度に「ネアックルー　ソクサバーイ？(先生元気？)」と声をかけてくれます。現在は体育の指導を教員養成校でのみ週に3時間行っています。学生にとって、今まで習ってきたのはラジオ体操のような体操ばかりだったので、ゲームを取りいれた授業を行うと、とても盛り上がります。10月から始まる新年度ではサッカーやバレーなど学生の好きなスポーツを取り入れ、小学校においても体育指導を開始する予定です。